

ほんげみょうしゅう
本化妙宗 (法華經・本門)



(小冊子 17)

『日本の国を祈る』 (ウイルス到来)



いつてんしかいかいきみょうほう
一天四海皆帰妙法



2019年12月8日 中国武漢で初めて「新型コロナウイルス」の感染者が見つかりました。人には全く免疫がないと言われるこの「新型コロナウイルス」は、未知のウイルスで、未だ終息の予測も定かではありません。
古来からの日本の歴史を辿れば、奈良時代には天平の疫病大流行とあります。735〜737年の2年間に渡って天然痘が流行し、

当時の総人口そうじんこうの25〜35%に当たる100万人〜150万人が
感染しほうにより死亡しぼうしたとされています。又、初代仙台藩主の伊達政宗
(独眼竜 正宗) も幼少の時に天然痘てんねんとう(疱瘡ほうそう) に掛かり右目を失って
います。そしてこの天然痘は江戸末期になり天然痘ワクチンにより
漸く撲滅ぼくめつされました。人類は常にこの疫病えきびょうと共に生存しなくては
なりません。

物事が現象げんしょうとして現れる時には必ず、その元もととなる「原因げんいん」がある
はずです。そしてその原因に応じた「結果けっか」が現れて来ます。

これは「因果いんがの法則ほうそく」で必然ひつぜんです。

その後鎌倉時代に入り、1259年(正元元年) 大飢饉だいききん、大疫病だいえきびょう
流行。1260年(正元2年) 四季に渡って大疫だいやくやまずとするされて
います。(大疫だいやく⇒多くの人に伝染病が広がった)

この鎌倉時代日蓮聖人は、これらの災禍さいかと現実を照らし合わせ
世に警鐘けいしょうを鳴らす予言を「立正安国論りっしょうあんこくろん」の中で述べられました。

(災禍さいか⇒風水害・火災その他の事故に依り受ける災害)

難なんが起おこる所ところ為なりとは、「世皆正よみなしょうに背そむき人悉ひとことごとくく悪あくに帰きす。故ゆえに善ぜん
神じんは国くにを捨すてて相去あひさり、聖人せいじんは所ところを辞じして還かえらず。是これを以もつて魔来まきたり
鬼来ききたつて、灾起さいおこり難起なんおこる。」

現代解釈



正法しょうぼう(実教の法華經)に背そむき、正法を受持する者はくがいを迫害はくがい、その国土こくどを

守護する諸天善神はこの国を捨てて、人々を指導するべき聖人も

この所を去って再び出現しない。これに依って魔や鬼神が押し寄せ
て災難を起こし国土を乱し人々を苦しめているのです。

立正安国論の冒頭に「近年より近日に至るまで、天変地夭・飢饉・
疫病あまねく天下に満ち広く地上にはびこる。牛馬巷に倒れ骸骨
路に充てり、死を招くの輩すでに大半に超へ之を悲しまざる族
敢て一人もなし。」

現在解釈

大風や大雨に見舞われ又、地震や洪水、早魃に依り作物が実らずそれ
に依って人々は飢えてい、そこに伝染病が広がり悲惨な状況に陥
っている。牛や馬はそこから中で死にその骸骨が路上に散乱し、死期を
迎えた人々が全人口の半数以上になり、この有様を嘆かないものは
誰一人としていない、又巷には飢えて物を乞う者があふれ遺体など
も散乱している。これらの事柄を「三災七難」と申します。



「大集経」に云はく、
「一には穀貴、二には兵革、三には疫病なり。一切の善神も悉く
之を捨離せん。」

一、穀貴 天候不順に依り穀物が不作、食糧不足になり生命が危険な
状態になる。

二、**兵革**（へいかく） 国内外で争いが発生し、国内が荒廢（こうはい）して多くの人が死亡する。

三、**疫病**（えきびょう） 国内に伝染病が蔓延（まんえん）し、多くの人々が罹患（りかん）し死亡する。それに依って政治・社会が混乱（こんらん）し、機能不全に陥（おと）ってしまふ。

この様な事態にあつて一切の善神（ぜんじん）が悉くその国土を捨てて離れてしまふ。

この三災の原因を「曾谷道宗入道」御書に「当時の**飢渴・疫病・合戦を法華經に誇（こゝろ）ける全國民の貪・瞋・痴より来たれるもの**」と斷（た）ぜられています。

穀飢（こくき） 飢渴（きかつ）（貪欲（どんよく）（むさぼり）の心）

兵革（へいかく） 合戦（かつせん）（瞋恚（しんに）（いかり）の心）

疾疫（しつやく） 疫病（えきびょう）（愚痴（ぐち）（おろか） 邪正（じやしやう）の見極めが出来ない。

次に「仁王經」の七難は「大の七難」と記されています。



一、**日月失度難**（にちがつしつどなん） 太陽・月の変異に依り日食などが起こり光り無き事

二、**星宿失度難**（しやうしゆくしつどなん） 衆星（もろもろのほし）の変現（へんげん）する事（彗星等）

三、**諸火焚燒難**（しよかほんしやうなん） 大火（たいか）に依り萬姓（ばんせい）（多くの人）を焼きつくす及び諸の火変起（かへん）こる

四、**雨水変異難**（うすいへんいなん） 時候激変（じこう）して冬雨（ふゆあめ）ふり、雷鳴（かみなり）り、夏雪（なつゆき）降り山崩（やまくず）れ

て石を流す

五、大風数起難（多くの人）を吹き殺し、山河樹木を

一時に滅没する等、諸の風変起こる

六、天地亢陽難（多くの草）枯れ五穀登らず、

諸水（全ての水）涸れ渴き萬姓滅尽する

七、四方賊来難（多くの）外敵襲ひ、内乱生じ、火賊・水賊等、群賊（多くの）

盜賊（多くの）掠奪を欲しいままにし、この様な事があつて民衆互いに相傷つけ殺し刀兵（戦争）が劫り起こる

日蓮聖人は、これらの三災七難（多くの）が起こつた結果として、

「我朝に二つの大難あるべし。所謂、自界叛逆難、他国侵逼難也」



現代解釈

これから我が国に二つの大難が起きるのであろう。それは自界叛逆難（国内に内乱が起こる）と、他国侵逼難（外国からの侵略）である」

「早く天下の静謐を思はば須く国中の謗法を断ずべし矣」

現代解釈



一時でも早く天下泰平を望むのであればなすべき事として国中の邪見の法を断つべし。

私達一人一人が先ず一切の謗法ほうぼうを捨てて正法しょうぼうたる法華經きんに帰依きよいかする事に依り、妙法蓮華經きやうりきの經力きんりきに依って一人一人の生命じやうかが浄化じやうかされ、それが個こから全体しゆじやうへ衆生世間しゆじやうに及び社会こくどを浄化じやうかしやがて国土こくど世間せけんに及び仏国土ぶつこくど化かしていきます。逆に私達衆生の生命あくほうが惡法あくほうに依よって濁にごればその濁にごりが国内こく内に充満ちゆうまんし国土こく土にも様々な変化へんげんを現あらわじ天変てんべん地天等ちやうになつて現あらわれるのであります。

最後にこの前代未聞ぜんだいみくわんのの新型ウイルスに世界中おほが覆おほい尽くされて以来人々は不安ふあんと緊張きんちやうの日々ひびを余儀よぎなくされています。昨年の12月よりワクチン接種せつしゅも始まりましたが何よりも一人一人が日蓮聖人にんねんを通して本門ほんもんの「南無妙法蓮華經」のお題目おんむすぶつを心を込めて唱となえる事が大切です。



「南無妙法蓮華經」

合掌

大阪府八尾市服部川933 天龍山一の谷 安國寺

電話 (072)941-8201

毎月第三日曜日に、法華經の法話会を行っています。

聴聞は、どなたでも ご参加下さい。

<http://www.eonet.ne.jp/~renshou-douju/index.html>

パワースポット「一塔合安 妙宗靈廟」で検索お願い

(本化妙宗 安國寺 知恩報恩推進委員会)